

現代日本学社会分析研究演習 I / 現代日本学演習 III 「現代日本における社会問題の分析」

第3講 中心的情報源

田中重人 (東北大学文学部教授)

[テーマ] 研究のための中心的情報源を見つける

1 大きな問い

論文の「問い」には、その論文中で、根拠を示して「答え」を出さなければならない。そのため、非常に絞り込んだ、小さい問いになる。

一方で、そのような問いは、より大きな問いの一部となっているのがふつうである。

- ある大きな問いに答えていくための、途中段階の小さな問い
- 範囲の広い問いについて、その範囲を限定した小さな問い

多くの場合、論文の冒頭で大きな問いを示したうえで、絞り込んだ小さな問いを検討する書きかたがとられる。

課題 1: 前回とりあげた各自の論文について、冒頭部分に「大きな問い」があるか?

2 学問分野

今日の学術研究は、細分化された分野(○○学、○○論など)にわかれておこなわれている。学会や学術雑誌は分野別に編成されているし、研究者も細分化された教育システムで育つ。

課題 2: 前回とりあげた各自の論文は、どの学問分野に属するものか?

たとえば、雑誌の発行元、著者の経歴や所属学会、引用されている文献の傾向などを調べてみるとよい。

3 中心的情報源

ある研究対象や学問分野について調べるには、それについての中心的情報源を把握しておくといよい。

3.1 学会

日本学術会議 協力学術研究団体一覧

- <https://www.scj.go.jp/ja/gakkai/> (分野別)
- https://www.scj.go.jp/ja/info/link/link_touroku_a.html (五十音順)

各団体のウェブサイトから、刊行物、学会大会プログラムなどをみるとよい。

3.2 雑誌

学会が出している雑誌については、上記参照。

その他の雑誌 (商業誌・同人誌・研究機関刊行物など) は、下記「古典／定番文献」を参照。
掲載論文を数十本程度読んでみるとよい。

3.3 教科書・事典類

多くの分野には、定番の教科書や事典がある (ない分野もある)。くわしい人に聞くとよい。

3.4 古典／定番文献

特定の対象について、しばしば引用される古典的あるいは定番の文献のあることが多い。

- Google Scholar で被引用数 (cited by) を調べることができる。ただし日本語文献は電子化されていないものが多いため、あまりうまくいかない。
- くわしい人に聞く

3.5 その他

それぞれの分野や研究対象によって、特別な位置を占める研究機関、図書館、研究者 (集団) のある場合がある。

4 宿題

各自の研究対象 (1つ) と学問分野 (2つ) について、中心的情報源となりそうなものを、それぞれ1つ以上見つけること。